**第１００回観察会　2011年７月21日(木) 12:05～12:55　曇り**

**テーマ『学べる植物園』**

**☆ガイドレポート**

足かけ９年にわたった観察会ですが、この日が最終回。そのガイドは、かなり重大な役目です。私が第１回のガイドをしたのが２００３年４月１０日でしたので、実際、随分経ちました。この間、私の肩書きも4回も変わりましたし、初回にはまだ母親のお腹の中にいた息子も、いまや小学校２年生です。確かに継続は力なり、ですし、一方で継続していると年をとります。

記録によれば、通算で２０回以上ガイドをさせていただいたとのことですが、初期の３年間は毎回のようにガイドをしていましたから、もっとたくさんやっていたような感覚さえ抱きます。実際、回数が問題というよりも、理学部植物園の教育面での利用価値や文化的な価値について理解を進めながら、毎回のテーマを考えては解説のための勉強をする、という作業に手間と時間をかけてきた分、たくさんやってきたという充実感や自負のような感覚を覚えたのでしょう。

最初と最後、というお役目ですから、初回の話やガイドを務める中で学んできたことなどを織り交ぜながら、「京大理学部附属植物園の本質的な価値について考える」という「考える会」の本質に立ち返るために、「学べる植物園」というテーマにしました。

最終回とはいえ、いつもと同じ５０分枠ですので、扱えるテーマにはかぎりがあります。そこで自分自身が学んだことの紹介に重きを置きました。余談ですが、ガイドをしていて間違った解説をしたこともあり、あとから気づいてショックを受けたこともあります。準備段階では、その話題を取り上げる事も考えていたのですが、時間の制約で割愛してしまいました。

最初の話題は、定番中の定番、植物園入り口付近のチャンチンモドキ（ウルシ科）の話です。これは前回ガイドをさせていただいた２０１０年１１月にも取り上げた話題です。そのときのレポートにも、チャンチンモドキのことが書かれています。繰り返しているうちに、話し手も聞き手も落語のような気分を味わえます。冗談はさておき、繰り返し話題にするだけの価値もインパクトもある植物です。

チャンチンモドキ（Choerospondias axillaris）はウルシ科チャンチンモドキ属の植物です。起源が古いといわれ、第三紀鮮新世には東アジア、東南アジアに広く分布していましたが、現存する近縁種がなく１属１種です。現在、日本での自生地は熊本と鹿児島の一部のみと、分布域が狭くなっています。

これだけ話題にしておきながら、実は私も自生地に行ったことがありません。つまり、野生のチャンチンモドキを見たことがないのです。自生地がそれだけ少ないからです、というと言い訳がましいでしょうか。いまだに果たせてはいませんが、この植物を私はこの植物園で知り、いつか自生地を訪ねようと心に決めています。観察会などを通じて、この植物がかつては日本でも非常によく利用されていたことや、ネパールでは今でも食料として利用されていることも知りました。たとえば、吉野ヶ里遺跡の井戸の羽目板がチャンチンモドキ材なのはよく知られています。さらに余談ですが、チャンチンモドキはやはり珍しい植物のようで、平凡社の日本の野生植物という図鑑での紹介写真は、この植物園の木の写真が使われています。木も大きく、花も果実も観察できる、という意味では、図鑑作りにも役立つわけです（図鑑には他の植物の写真も使われているので、探してみてください）。

では、なぜチャンチンモドキの自生地が縮小しているのでしょうか。同属に仲間がいないことが分類群としての衰退傾向を想起させますが、人間による生息地の破壊などを除けば、生き物の分布の変化（広がる、狭まる）や、種構成の変化（絶滅する、あらたに移住してくる）といった過程やその要因を明らかにすることは、容易ではありません。それは、トキやコウノトリの復活プロジェクト（絶滅種の人為的再導入と定着の試み）にかかる膨大な手間とお金を見ていても想像できます。

繁殖力が弱いのか、まずはそう考えるでしょう。しかし、自生地とは条件が違うはずの植物園で育っていても、膨大な量の果実が落ちてきます。種子は大きく、直径５センチほどもあります。見かけに種子はたくさんあっても、芽が出ないのか、という参加者からの声もありました。ですが、よく探してみてください。親木の根元が実生で埋め尽くされています。むしろ繁殖力旺盛に見えます。

繁殖といえば、5年ほど前、拾ったチャンチンモドキの種子を鉢植えにしたことがありました。一旦育てるのに失敗して、植木鉢ごと置きっぱなしにしていたところ、去年になって残っていた種子があったらしく、発芽して今も鉢で育っています。このように、種子には休眠能力もあるようです。すると、自生地の縮小の理由がますますイメージできません。

謎は深まるばかりですが、こうした探求心を刺激してくれることこそが、理学部植物園の重大な役割だと思うのです。図鑑でも扱いに困るような植物が、目の前で花を咲かせて果実を実らせているというのは、なんとも貴重で幸せなことだと思います。

つづいては、ハナノキ（Acer rubrum var. pycnanthum）というカエデを紹介しました。チャンチンモドキほどではないですが、これも野生個体に出会うのが困難な植物です。私は一度だけ、京大の生態研センター（当時は植物園内に研究室がありました）に所属していた先輩に連れられて、岐阜県の自生地を見に行ったことがあります。ネットで検索すると各県の自生地が複数紹介されています。ハナノキは湿地性とされ、貧栄養土壌に自生するとされますが、そのような土地自体が開発などで失われている影響は大きいと考えられます。東海丘陵要素という植物群に数えられ、東海地方でかつて行われた某巨大博覧会イベントでも、シデコブシなどと同様に注目が集まった記憶があります。

ハナノキという名前からは、カエデの仲間（Acer属）ということがイメージできないので、分類学における二名法を少し紹介しました。植物の名前は、国際規約に則って定められ（生物群ごとにいくつかの規約に分かれています）、これを学名（Scientific Name）といいます。Acer rubrumという学名がハナノキに与えられていますが、これはカエデ属のなかのrubrumという種であることを示しています。var.以降は何なのだ、と思われるかもしれませんが、これはA. rubrumという、アメリカで記載されたハナノキという種の中で、日本に生息する変種（バリエーション）であることを示します。このように人間の名字と名前という感覚で、属名と種名の２つのセットで表すから二名法というわけです。属より一段階上の分類単位として、科があり、比較的馴染みがあると思います。伝統的に、カエデはカエデ科に分類されていましたが、最近の分子系統分類を反映した考え方では、カエデ属はムクロジ科に組み込まれています。モミジに代表されるカエデの仲間のカエデ属というまとまりは崩れていないので、混乱する必要はないのですが、参加者からは「ムクロジ科？？」という反応もいただきました。当然の驚きです。そこで当日は、参考書籍として『植物分類表』（大場秀章編著、Aboc社）を紹介しました。辞典としても読み物としても面白いと思います。

つづいて、オオハンゲ（Pinellia tripartita）を紹介しました。これはサトイモ科の植物で、近縁のカラスビシャクが別名ハンゲとして知られています。カラスビシャクのむかごをハンゲといい漢方薬にするそうですが、オオハンゲにはむかごはつきません。カラスビシャクは、農地など集落の近くで見られ、京都近辺でも見つけることができます。一方オオハンゲは、常緑広葉樹林内の植物とされます。

この植物も、理学部植物園で初めて見ました。やはり野生のものが見たいという衝動にかられましたが、近くにはなさそうです。京都市近郊の常緑広葉樹林にもかつては生息したのかもしれませんが、人間の影響なのか、都市近郊の林からはいろいろな植物が姿を消してしまっています。

その後、鹿児島県の霧島連峰の山あいを走る県道の脇で群生しているのを見ることができました。ハナノキと同様に湿地性で、斜面から水がしみだしている所でした。足下にヒルが殺到してきましたが、それよりもずっと興奮したことを覚えています。サトイモ科で近縁のムサシアブミという植物も、この植物園で初めて見てから、埼玉県の狭山丘陵の河畔で見つけたことがあります。そのムサシアブミには花がなかったのですが、植物園での予習が活きて、葉っぱだけでも見分けられました。初めて出会ったという意味でもそうですし、予習が活きたということにも、感動を覚えました。

ハナノキは花の木のとおり、美しい花を咲かせますし紅葉も美しいものです。オオハンゲは変わった形の花を咲かせますし、果実の熟し方も興味深いものです。しかし、自生地が限られていて身近にない場合、短い花の時季に合わせることや、果実が成熟していく過程を観察することは困難です。とくに、時季を外してしまう、ということがよくあって、くやしい思いをしたこともしばしばです。

その点、理学部植物園は非常に近い所にありますし、植物やその他の生き物が豊富です。紹介してきた通り、貴重なものや珍しいものもたくさんあります。なにより、頻繁に足を運ぶことができ、生き物のごく短い期間での変化でも観察することが可能です。しかし、そのような植物園の価値は、見る者や利用する者によって認識されなければ価値がないのも同じです。利用者自身が学び、見る目を養わなければ、せっかくの空間も宝の持ち腐れですし、その場が利用できない状態に陥れば、「利用者」でいることもできないのです。２００３年にこの活動を始めてから、私自身が学びの場を得たことは幸運でした。今後も、京大理学部附属植物園がその役割を果たし続けることを願いますし、もっと多くの人の学びの場であることを願っています。

案内人：今村彰生さん（大阪市立自然史博物館外来研究員）（京大植物園第１回観察会ガイド）

**☆参加者の感想**

* 少しの時間ですが大変面白かった。終わりになるのが残念です。  
  （参加～１０回、６１才以上、男性、京都市外のかた）
* 珍しいものをたくさん見せていただいてありがとうございました。また見せてもらいに来ます。  
  （参加～１０回、６１才以上、女性、京大近辺のかた）
* いろんな生きものの豊かな森になったんですね。また来ます！ありがとう♡  
  （参加１１回以上、女性）
* 長い間ありがとうございました。１００周年にむけて、ゆるりと楽しく継続して下さい。  
  （参加～１０回、３１～６０才、女性、京大近辺のかた）
* 何回もきてるのに今村さんのお話は今日がはじめてでした。またお話してほしいです。お話うまいですよ！自身もってね。  
  （参加１１回以上、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* また個人的に植物園に観察に通ってみたいと思いました。  
  （初めての参加、１８～３０才、男性、理学部学部学生のかた）
* 何度も会に来させていただいて、①ヤマコンニャク、②キヌガサタケ、③チャンチンモドキの芽の出たところを見せていただけ、たのしうございました。トトロの住む植物園がすてきです。長い間有りがとうございました。  
  （参加１１回以上、女性、京大近辺のかた）
* ふしのきの白い房状の花、るりやなぎ（小泉八雲が愛した花だそうです。）今日はじめてみました。  
  （参加１１回以上、６１才以上、女性、京大近辺のかた）
* 今村先生の分類学のお話興味深く聞きました。２０回もの観察会ありがとうございました。  
  （参加１１回以上、３１～６０才、京大近辺のかた）
* 本日の観察会は、第１００回目として充実した１時間でした。特にチャンシンモドキをはじめとして植物の詳細説明をいただき有り難うございました。今後、是非とも新しい観察会を早急に立ち上げてくださるようお願いいたします。  
  （参加１１回以上、６１才以上、男性、京都市外のかた）
* 今までおつかれさまでした。今日も学ばせていただきました。  
  （１８～３０才、男性、農学部昆虫研院生のかた）
* 観察会１００回目ということと、今日で終了ということで何とも感慨深い観察会でした。植物園の木々１本１本がいとおしく思われ、どうにかこれからもこの植物園の存続と観察会の再開を願わずにはいられませんでした。北大植物園のことを思っても、もう少し学校当局の積極的なかかわりを望みたいです。  
  （参加～５回、６１才以上、女性、京都市外のかた）
* 普段文系の事ばかりしているせいもあって、植物に近づいて勉強するのは相当久しぶりの事でした。今日の三つの柱に「教養」がありましたが、高校を卒業し大学まで来ておいて植物の分類の基本も知らない事を恥ずかしく思い、京都へ来てまだ数ヶ月ですが、前回や前々回も参加しておけばとも思いました。第１００回おめでとうございます。そしておつかれ様でした。  
  （初めての参加、１８～３０才、男性、京都市内のかた）
* いつも写真を撮るだけで人の話は聞いてなくて、最後くらいは話を聞こうと思ったのだがやはり人より虫に目がいってしまった。天気がいまひとつで、虫が少なかった。  
  （参加１１回以上、３１～６０才、男性、京大近辺のかた）
* 数回の参加でしたがありがたいでした。植セイ、珍しい植物をたのしませていただきました。又の機会をお願いしたいです。感謝。  
  （６１才以上、女性、京都市内のかた）
* 久しぶりに参加できて楽しかったです。チャンチンの由来など、興味深い話も聴けてよかったと思います。  
  （参加～５回、１８～３０才、女性、理学部動物生態学院生のかた）
* 今村さんのガイドとてもよかった！です。時間が短くて残念！です。　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大近辺のかた）
* 初めての参加ですが、１００回目、最終回参加できてよかったです。様々な植物がみられて、また他の季節にも来たくなりました。  
  （初めての参加、１８～３０才、女性、京都市外のかた）
* たどたどしいような話ぶりがまたおもしろい、深い内容でよかったです。体系の勉強を、ちょっとやってみようと思いました。ありがとうございました。今後も定期的に続くことを祈りつつ。  
  （参加１１回以上、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* 今回始めての参加でしたが、最初で最後、というのはとても残念です。今後もたまにで良いので開催して欲しいです。  
  （初めての参加、３１～６０才、男性、学術情報メディアセンター職員のかた）
* 京大の中にこんな素敵な環境があるなんてものすごく感動しています！もっと前から参加したかったです！今村さん、スタッフの皆々様、またお会い出来る日を楽しみにしています！！！  
  （初めての参加、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* 今回で１００回目とのこと、是非とも何らかの形で続けていっていただきたいと思います。  
  （参加～５回、３１～６０才、女性、京都市外のかた）
* 今日で終わりとのこと、とても残念ですが、お世話になりありがとうございました。理学部植物園の樹木のこともっと知りたいので、またよろしくお願いします。  
  （参加～５回、６１才以上、女性、京大近辺のかた）
* 長い間ごくろう様でした。分類の話しが良かった。  
  （参加～５回、６１才以上、男性、京都市内のかた）
* 初参加が最終回なんて残念です。冬も良さそうですね。  
  （初めての参加、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* 初めてで最後とは思いませんでした。以前、参加された方からおしえていただき今回きました。ぜひ続けて下さい。  
  （初めての参加、京都市内のかた）
* 面白かったです。又、再開して下さい。  
  （参加～５回、３１～６０才、女性、京都市外のかた）
* ひさしぶりに、植物を見ました。おもしろかったです。  
  （３１～６０才、男性、京都市外のかた）
* 最近あまり来ませんでした。１００回めおめでとうございます。ありがとうございました。  
  （参加～１０回、６１才以上、女性、京大近辺のかた）
* 各回、断片的ながら知識を得ました。新生観察会を期待します。  
  （参加１１回以上、６１才以上、京大近辺のかた）
* 少しの時間ですが大変面白かった。終わりになるのが残念です。  
  （参加～１０回、６１才以上、男性、京都市外のかた）